

3. 4 統括委員会によるサブプロジェクト全体の運営

(1) 業務の内容

(a) 業務の目的

サブプロジェクト①に、3つのサブプロジェクトのメンバーからなるプロジェクト全体を統括運営する統括委員会事務局を設け、サブプロジェクト相互の協力・連携を図り、研究成果の社会還元への推進に努める。研究の中間成果も含めて、広く研究の成果を社会に説明すること等を通じて、社会の科学リテラシーや防災リテラシーの向上に繋がる方策を検討して、実践する。さらに、本研究計画で主として対象とする首都圏での成果を、中京圏、京阪神圏等、脆弱性を克服すべき多くの都市にも広げる方策についても検討する。

(b) 平成 28 年度業務目的

- 1) サブプロジェクト相互の協力・連携を図るため、3つのサブプロジェクトの研究者等からなるプロジェクト全体を統括運営する「都市の脆弱性が引き起こす激甚災害の軽減化プロジェクト統括委員会」を2回程度開催して、プロジェクト全体の進捗を管理するとともに、サブプロジェクトの研究の進展に対する相互理解を深め、サブプロジェクト間の協力・連携による発展的研究成果の創出に努めるとともに、研究成果の社会還元を推進する。
- 2) 都市の地震被害評価や巨大な地震が都市を襲うことを想定した激甚災害の軽減方策についての研究を推進するため、各サブプロジェクトが開催する交流会等に参加し、地震防災研究に関する議論や交流を図る。
- 3) 3つのサブプロジェクトにおいて、主にプロジェクト期間中に得られた研究成果をまとめた総括成果報告書（仮称）の作成と編集に協力する。
- 4) 都市の脆弱性が引き起こす激甚災害の軽減化プロジェクト全体の成果を活用促進するために、多くの人々に向けた最終成果報告会を開催し、広報物の作成とホームページへの掲載や希望者への配布を行う。

(c) 担当者

所属機関	役職	氏名	メールアドレス
東京大学地震研究所	教授	平田 直	hirata@eri.u-tokyo.ac.jp

(2) 平成 28 年度の成果

(a) 業務の要約

- 1) サブプロジェクト相互の協力・連携を図るため、3つのサブプロジェクトの研究者等からなるプロジェクト全体を統括運営する「都市の脆弱性が引き起こす激甚災害の軽減化プロジェクト統括委員会」を2回開催して、プロジェクト全体の進捗を管理するとともに、サブプロジェクトの研究の進展に対する相互理解を深め、サブプロジェクト間の協力・連携による発展的研究成果の創出に努めるとともに、研究成果の社会還元を推進した。
- 2) 都市の地震被害評価や巨大な地震が都市を襲うことを想定した激甚災害の軽減方策に

についての研究を推進するため、各サブプロジェクトが開催する交流会等に参加し、地震防災研究に関する議論や交流を図った。

- 3) 3つのサブプロジェクトにおいて、主にプロジェクト期間中に得られた研究成果をまとめた総括成果報告書の作成と編集に協力した。
- 4) 都市の脆弱性が引き起こす激甚災害の軽減化プロジェクト全体の成果を活用促進するために、多くの人々に向けた最終成果報告会を開催し、広報物の作成とホームページへの掲載や希望者への配布を行った。

(b) 業務の成果

1) 都市の脆弱性が引き起こす激甚災害の軽減化プロジェクト統括委員会

平成28年9月28日と平成29年1月18日に「都市の脆弱性が引き起こす激甚災害の軽減化プロジェクト統括委員会」を開催した。各サブプロジェクトの研究代表者と担当者及び有識者から構成される統括委員会委員とオブザーバが出席し、サブプロジェクトごとに進捗状況について説明があった。これらの説明をもとに、他サブプロジェクトの研究の進展に対する相互理解を深め、サブプロジェクト間の連携や中間成果の広報活動などプロジェクト全体の運営について意見交換や総合的な議論を行い、プロジェクトを円滑に推進させた。

なお、統括委員会の議事録は、4.1 会議録に掲載した。

2) 総括成果報告書の作成

プロジェクト期間中に得られた3つのサブプロジェクトの研究成果をまとめ、総括成果報告書を作成した。また、その一部を執筆した。

3) 最終成果報告会の開催

本プロジェクトの最終成果を一般市民および防災の専門家にわかりやすく伝え、成果物の利用促進および社会還元を目的とした最終成果報告会を平成29年3月14日に東京大学安田講堂で開催した。当日は約700名の参加者があった(図1)。第一部では須藤明裕氏(内閣府政策統括官(防災担当)付参事官(災害緊急事態対処担当))による基調講演をはじめ、各プロジェクトを代表して、平田直(東京大学地震研究所 教授)、中島正愛(京都大学防災研究所 教授)、林春男(国立研究開発法人 防災科学技術研究所 理事長/京都大学防災研究所 特任教授)、また、特別講演として、上田修功氏(国立研究開発法人 理化学研究所 革新知能統合研究センター 副センター長)、柴山和久氏(ソフトバンク株式会社 ビッグデータ戦略本部 本部長/株式会社 Agoop 代表取締役社長 兼 CEO)の6氏から理学、工学、社会科学それぞれの立場から研究成果報告および講演が行われた。また、第二部では、3つのサブプロジェクトを取りまとめる統括委員会の委員長である前川宏一(東京大学工学系研究科 教授)を進行役として、平田教授、中島教授、林特任教授、上田氏、柴山氏、堀江直宏参事官補佐(内閣府政策統括官(防災担当)付参事官(防災計画担当)付)の7氏によるパネルディスカッション「超スマート社会(Society5.0)における防災・減災のあり方と実現に向けて」を行った。報告会のプログラムを表1に、掲載した。

(c) 結論ならびに今後の課題

「都市の脆弱性が引き起こす激甚災害の軽減化プロジェクト統括委員会」を2回開催した。各サブプロジェクトが開催した国内外の交流会に参加し、最新の地震防災研究について活発な議論を行った。また、本プロジェクトの成果を一般の方々に紹介するための最終成果報告会を行った。

(d) 引用文献

なし

(e) 学会等発表実績

学会等における口頭・ポスター発表

なし

学会誌・雑誌等における論文掲載

なし

マスコミ等における報道・掲載

なし

(f) 特許出願，ソフトウェア開発，仕様・標準等の策定

1) 特許出願

なし

2) ソフトウェア開発

なし

3) 仕様・標準等の策定

なし

表1 最終成果報告会 概要

1. 最終成果報告会の目的

都市の脆弱性が引き起こす激甚災害軽減化プロジェクトの最終成果を公開し、成果物の利用促進および社会還元を加速を目的とする。

2. 開催日時・場所

日時：平成29年3月14日（火） 13時～17時

場所：東京大学安田講堂

3. プログラム

第一部 講演会

13時00分 開会

あいさつ（文科省）

13時10分 基調講演

「わが国の地震対策について」

（内閣府政策統括官（防災担当）付参事官（災害緊急事態対処担当）須藤 明裕
（内閣府 官房審議官（防災担当）代理）

13時30分 サブプロジェクト①

「首都直下地震の姿とその影響」

（東京大学 地震研究所 教授 平田 直）

13時50分 サブプロジェクト②

「都市施設の崩壊余裕度と健全度判定」

（京都大学 防災研究所 教授 中島 正愛）

14時10分 サブプロジェクト③

「大規模被害の発生を前提とした災害からの回復力の向上」

（国立研究開発法人 防災科学技術研究所 理事長/
京都大学 防災研究所 特任教授 林 春男）

14時30分 特別講演①

「理研 AIP センターにおける防災・減災研究の取り組み」

（国立研究開発法人 理化学研究所 革新知能統合研究センター 副センター長
上田 修功）

14時50分 特別講演②

「災害時におけるビッグデータを活用した防災分析」

（ソフトバンク株式会社 ビッグデータ戦略本部 本部長/
株式会社 Agoop 代表取締役社長 兼 CEO 柴山 和久）

15時10分 休憩

第二部 パネルディスカッション「超スマート社会（Society5.0）における防災・減災のあり方と実現に向けて」

15時30分 前川教授、平田教授、中島教授、林特任教授、上田氏、柴山氏、堀江直宏参事官補佐（内閣府政策統括官（防災担当）付参事官（防災計画担当）付）

17時00分 閉会

4. 対象者

防災に興味を持つ市民、学術コミュニティー、防災関係者 等

5. 配布資料

「都市の脆弱性が引き起こす地震災害」（一般向け資料）



図1 最終成果報告会の様子。上図) 講演時、下図) パネルディスカッション時。